

日本の参謀本部とその役割

財団法人 日本地図センター
箱岩 英一

わが国の測量と地図作りの歴史は、明治維新直後の1869（明治2）年4月政府内に民部省が設置され、その下に戸籍地図掛が設けられたのに始まります。

その後、測量と地図作りは、大まかに言えば、文官系である内務省地理局と武官系である参謀本部測量課とにより二元的に実施されて行きます。やがて、この流れは参謀本部の管轄に統一されて行き、現在の国土地理院に引き継がれて行きます。

『劔岳 点の記』の主人公、柴崎芳太郎が劔岳に登頂成功したのは1907（明治40）年のことですが、柴崎は、参謀本部陸地測量部に属していたので、武官系の流れになります。ここでは、この流れについて、参謀本部の設置と役割についてお話をしたいと思います。

明治新政府は1870（明治3）年10月に陸軍の兵式に世界で一番強いと言われていたフランス式を採用することにして政府直属の軍隊を持つことにしました。この兵力を背景として7月に廃藩置県を断行して中央集権国家を成立させ、東京、大阪、鎮西（熊本）、東北（仙台）の4鎮台（その地方の守備に当たる軍隊）において地方軍備の整備を開始しました。更に、1873（明治6）年に名古屋、広島に鎮台において6鎮台としました。兵部省には1871（明治4）年2月に参謀局が置かれ、かつその下部機構として間諜（その土地や相手方の情勢を知るための見張り）隊が設けられ、「平時において地理の偵察・調査と地図の編集作成を行う」ことを任務としていました。

1872（明治5）年に兵部省は陸軍省、海軍省に分離しましたが、間諜隊はそのまま陸軍省に存置されました。



次いで1874（明治7）年2月に間諜隊が拡充されて参謀局内の第5課及び第6課となりました。

参謀局各課の役割は、第1課 総務、第2課 各国の政誌、第3課 各国兵書の翻訳、第4課 各国の兵誌、第5課 地図、第6課 測量、第7課 文庫でした。

1878（明治11）年12月、参謀局は廃止され参謀本部が設置されました。参謀本部長陸軍中将山県有朋には、これまでの内戦にそなえるという陸軍の任務は西南戦争をもって終了したという判断がありました。これまで以上の大軍の統帥をどうするか、という問題を解決するために成立した組織が参謀本部でした。近代的大組織を運用するために、組織が組織を運用すると



在りし日の参謀本部と陸地測量部（1944年12月 米軍空撮）

いう新しい考え方が要求されるようになったためです。西南戦争後にドイツから帰国した桂太郎は、軍令と軍政との分離すなわち陸軍省から参謀本部の分離独立を主張する建議を行いました。わが国は、普仏戦争で圧倒的な勝利を取めたドイツに範を求めるべくフランス式からドイツ式に切り替えを行いました。ここにドイツに範をとった参謀本部の設置が実現したのです。

参謀本部は作戦計画の立案等を担当し、軍政は陸軍省が担当しましたが、当然のことながら軍令と軍政を明確に分けることは不可能で、広範囲にあいまいな領域が生じた結果、混乱を招くことにもなりました。兎

も角、参謀本部は天皇の直轄組織となり、軍事命令は、天皇から下されることになりました。このため、参謀本部では玉座が一室に設けられておりました。

これに伴って地図・測量担当の第5課・第6課は、それぞれ参謀本部の地図課・測量課と改称されました。同年同月、測量課長に任命された工兵中佐小菅智淵は、全国測量の実施を企図し、「全国測量一般の意見」として縮尺五千分一地図を十年間で全国を覆う事業計画を参謀本部長陸軍中将山県有朋に具申しました。しかしながら、主旨には賛成であるが、経費の点で難色を示されたので、小菅は更に「全国測量迅成意見」を提出



参謀本部（右）と陸地測量部（左）

して許可されました。これは地図作成の基本である三角測量を行わずに細部測量から直接「迅速測図」方式で縮尺二万分一地図の全国整備を企図したものでした。

参謀本部は創設以来、日清戦争（1894（明治27）年）にいたるまで、制度がしばしば改正されました。外征戦争準備のための機構改編でした。1886（明治19）年参謀本部は陸海軍を統一管掌する機関となり、参謀本部に陸軍部と海軍部をおきました。1888（明治21）年には、陸海軍を統一管掌する参謀本部を参軍と改め、その下に陸軍参謀本部・海軍参謀本部をおく制度となりました。機構の格上げのための措置でした。しかし、その翌年には参軍制は廃止され、参謀本部条例が制定され、陸軍の軍令機関として参謀本部が残り、海軍の軍令機関は海軍大臣に属する海軍参謀本部に機構を縮小しました。つまり、陸軍参謀本部と呼称する機関は、1888（明治21）年5月12日から1889（明治22）年3月7日の10カ月余りの短い期間でしか存続しなかったことになり、それ以外の65年間は参謀本部と呼んでいました。同年5月、陸地測量部条例が公布され、参謀本

部の一局であった測量局は分離して本部長直属の独立官庁である陸地測量部となり、その主務は「陸地測量を施行し兵要地図及一般の国用に充つ可き内国図を製造修正し其他量地に関する事を掌る所とす」とされました。そして下部組織に三角・地形・製図の三科および修技所を置き、測量局の業務をそのまま継承しました。このときの組織改正により全国規模で行われる測量については、行政上国防上の見地から、陸地は陸軍、水路は海軍で、それぞれ統括するという方針が組織面から確立され、この原則が1945（昭和20）年の終戦まで継続されました。🌊

※前頁の空中写真は、(財)日本地図センターが、米国公文書館より昨年、発見したものであり、参謀本部及び陸地測量部の建物が空襲により焼失する以前の姿を残す、唯一の写真で貴重なものです。

■参考文献

「日本の参謀本部」大江志乃夫、中公新書／「終戦前後の参謀本部と陸地測量部」金窪敏知、渡辺正氏所蔵資料集編集委員会編、大阪大学文学研究科人文地理学教室発行